

# G7気候・環境大臣会合の結果

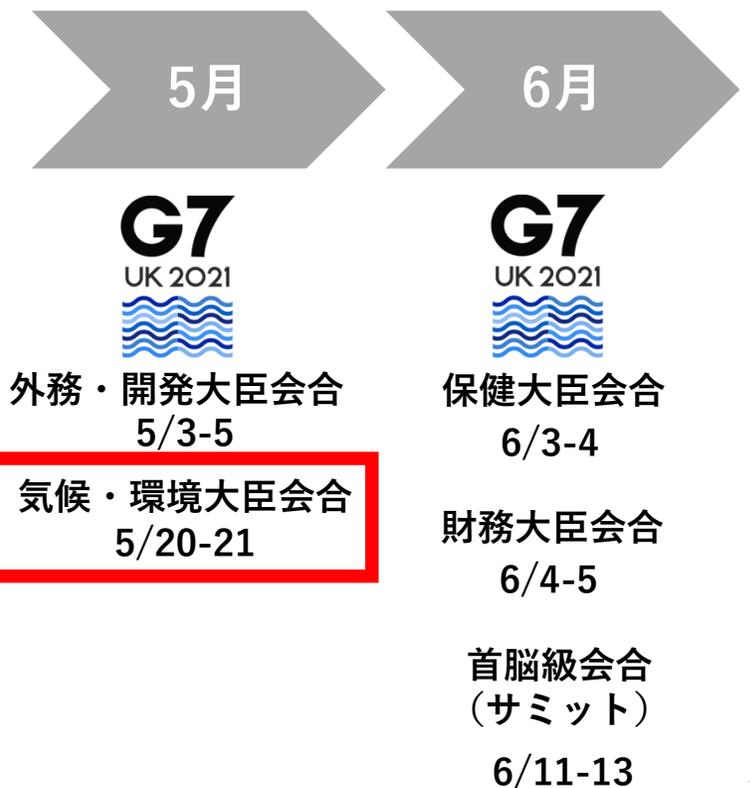
～全体概要～

持続可能性ガバナンスセンター  
リサーチマネージャー

天沼伸恵

# そもそもG7とは

- 主要な先進7か国による政府間組織
- 議長はメンバー国が持ち回り（本年は英国）
- 首脳が集まる「サミット」以外にも様々な分野に関する大臣会合が開催される
- どの大臣会合を開催するか、何を議論するかといった点に議長国の優先課題や意思が反映
- 日本は2016年にG7議長。次回は2023年。



日本から小泉環境大臣、  
梶山経済産業大臣等が参加

# 本年のG7気候・環境大臣会合が重要な理由

- G7サミットの議論・成果（気候・環境分野）の土台。
- 気候・環境分野の重要な会議・交渉が目白押しの2021年。これらに向けたG7の立場を窺い知ることができる。
- バイデン大統領就任で米国は気候・環境政策を大転換。G7として団結しやすい状況に。G7大臣会合の成果から先進国の今後の方向性を窺い知ることができる。



Food Systems Summit 2021

## 国連食料システム サミット (9月)

SDGs行動の10年の一環で、国連事務総長が招集。食料システムは気候変動、生物多様性と深い関り。



2020 UN BIODIVERSITY CONFERENCE  
COP 15 - CP/MOP10-NP/MOP4  
Ecological Civilization-Building a Shared Future for All Life on Earth  
KUNMING, CHINA

## 生物多様性条約 COP15 (10月)

新たな世界目標である「**ポスト2020生物多様性枠組**」が決定される。



UN CLIMATE CHANGE CONFERENCE  
UK 2021  
IN PARTNERSHIP WITH ITALY

## 気候変動枠組条約 COP26 (11月)

G7議長である**英国**がホスト。気候変動に関する資金の流れや海洋の役割にも注目。



## 第5回国連環境総会 UNEA 5.2 (2022年3月)

海洋プラスチックごみに関する議論にも注目。

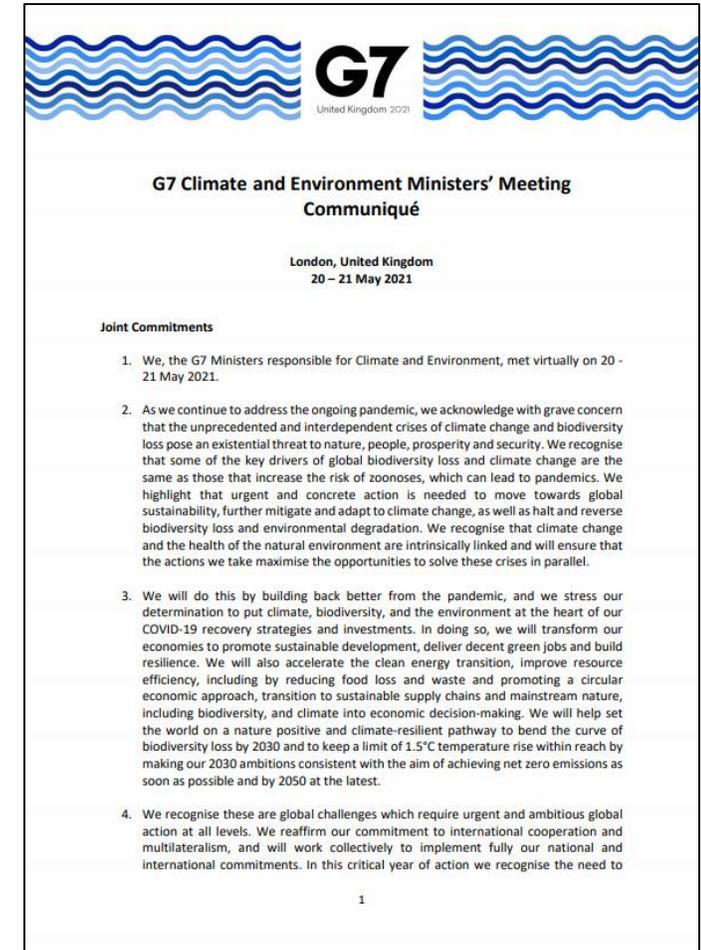
# G7気候・環境大臣会合の成果

## 1. 気候・環境大臣による共同のコミットメント

- ✓ **気候変動と生物多様性の損失という2つの危機への対処**
  - ・ 生物多様性の損失や森林減少をこれ以上引き起こさないような脱炭素化の道筋を実行
  - ・ 海洋、森林、自然を活用した解決策の役割
  - ・ あらゆる資金、手段、方法を用いること
- ✓ **COVID-19からのより良い復興－その戦略や投資の中心に気候、生物多様性、環境を据える**
- ✓ **誰一人取り残さない**
  - ・ 不均衡な影響、変革の主体者としての脆弱な人々の意思決定への参加、公正で包括的な移行

## 2. 気候変動

## 3. 環境



G7気候・環境大臣会合  
コミュニケ（声明文）  
（合計27ページ、76パラグラフで構成）

# G7気候・環境大臣会合の成果

## 1. 気候・環境大臣による共同のコミットメント

## 2. 気候変動

## 3. 環境

- ✓ 自然との関係性の再構築
- ✓ 自然の主流化
- ✓ ワンヘルス・アプローチによる人獣共通感染症と薬剤耐性の予防と対策
- ✓ 自然資源の持続可能で合法的な利用への移行  
(資源効率性、森林破壊、自然に対する不正な脅威)
- ✓ 海洋に関する行動 (海洋の保護・保全、海洋ごみ等)
- ✓ 食品ロスと廃棄物

### 生物多様性

- 「2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる」決意 (パラ47)
- 生物多様性損失の5つの直接要因 (土地・海の利用の変化、生物の直接搾取、気候変動、汚染、侵略的外来種) に対処 (パラ48)
- 「2030年までに世界の陸地の少なくとも30%と海洋の少なくとも30%を保全・保護すること (30by30) を含む野心的かつ効果的な生物多様性の世界的ターゲットに向けて尽力」 (パラ50)

# G7気候・環境大臣会合の成果から読み取れること

全体的

## ✓ ステークホルダーとの協力の必要性

「全てのパートナーとステークホルダーによる協調的且つ協力的な行動が必要」 (パラ48)

## ✓ 気候変動に関する官民による資金動員

## ✓ 自然の主流化における金融の役割

- 気候関連リスクと自然関連リスクの両方を組織のリスク管理アーキテクチャに統合、自然資本への投資の緊急性と必要性
- 企業等と協力して、標準化された自然資本会計の手法を開発

【参照】ダスグプタ報告書（生物多様性に関して、経済学の考え方やアプローチを根本的に変える必要）

## ✓ 自然に有害な影響が認められる政策（補助金を含む）は見直しの可能性

## ✓ 持続可能なサプライチェーン

- 森林減少・劣化とは無縁の商品の消費にインセンティブ、サプライチェーンの透明性とトレーサビリティ強化

## ✓ 食品ロスと廃棄物の削減のため、食品サプライチェーンと家庭を支援

- 革新的なビジネスモデルや技術を導入、全てのセクターをまたぐ行動変容プログラム

企業

# 政府以外のステークホルダーの役割

G7で議論される分野に関してステークホルダーが提言等の貢献を行う仕組み  
(エンゲージメントグループ)



こうしたグループの提言から読み取れる各グループの優先事項と  
G7気候・環境大臣会合の成果のギャップは？  
→IGESのコメンタリーを乞うご期待

ご清聴ありがとうございました。

持続可能性ガバナンスセンター / リサーチマネジャー

天沼伸恵

**IGES** Institute for Global Environmental Strategies  
公益財団法人 地球環境戦略研究機関